



## 大正地区総合防災訓練

地区初の試み 図上訓練(DIG)を実施

9月11日(日)に毎年恒例の大正地区総合防災訓練を各地区、各種団体等から210名程の参加のもと地区体育館で実施しました。

最初に「防災クイズ〇×」にチャレンジの後、

国土交通省鳥取河川国道事務所から、千代川流域の概要、過去の台風や洪水の状況、浸水想定区域図、家屋倒壊氾濫想定区域図について、続いて鳥取市危機管理課から水害時避難勧告等の情報提供について説明を受けました。

浸水想定区域図は、従来は325mm/48時間の降雨量をもとに千代川流域で想定される洪水による浸水深が作成されていたものを、近隣県で記録した降雨量508mm/48時間をもとに見直され、今年6月に公表されたものです。

引続いて、説明を受けた内容をもとに7グループに分かれて行った図上訓練では、次の事項等を浸水想定区域図で確認し、また対応策等を話し合いました。

- \*洪水時の危険場所(用水路、小河川)は?
- \*避難場所、避難所は?
- \*避難する経路(主要道路、通行不能箇所)は?
- \*災害時要支援者(障がい者、寝たきりのひと、一人暮らし高齢者等)の状況は?
- \*避難が遅れた場合の緊急避難場所の有無は?



水害を体験したことがない、河川の整備状況からして水害に会うことが想定しづらいなどの理由から、図上での訓練が難しい状況もありましたが活発な話し合いが行われ、その結果が各グループから報告されました。

大正地区に適切な避難場所(一時的なもの)、避難所(長期的なもの)がないということで、どこに避難すべきか、要支援者への支援をどうすべきかなどが課題として上がったようでした。

水害ニュースで、冠水した道路の深みに入り込み放棄された車を見ることがありますが、その車は廃車せざるを得ず、また復旧の際の障害になります。

地区外に避難する場合は、車利用が現実的と思われます。強い風雨の中での避難や要支援者の避難、また、車という財産を守るという意味でも、早めに車での避難を行っていただければと考えますがいかがでしょうか。

皆様の地区での防災訓練に、ぜひ図上訓練を取り入れていただきたいと思います。



防災グッズを展示



図上訓練  
浸水想定区域図をもとに話し合い



訓練結果を発表

《説明の概要》

### 【浸水想定区域図、家屋倒壊氾濫想定区域図について】

- 浸水深の表示の変更(従来5段階から4段階に)
  - 0.5m...1階床上浸水、氾濫時は大人でも避難が困難
  - 3.0m...2階床面が浸水(2階建ての住宅では避難が必要)
- 徳尾地区、徳団地区、高草中学校で水深0.5m~3.0m未満  
その他地区のほぼすべての住宅地が水深3.0m~5.0m未満
- 大正小学校の場所では、水深2.5m程であったものが4.8mに見直し。
- 氾濫した水の流れて、大正地区の大半の家屋が倒壊の恐れがある。

### 【災害時の情報提供について】

- 千代川に設置された水位基準により避難準備情報、避難勧告、避難指示を発令
- 「避難勧告等の発令がない」=「安全」でない。発令が困難な場合もある。  
危険を感じたら自主避難 → 最も有効な方法は、早めの避難
- 避難の種類は、在宅避難(自宅が安全なとき)、立ち退き避難(避難所生活)
- 洪水時の避難場所...大正地区内に適当な場所がない  
市が想定した近隣の避難場所...松保地区体育館、東郷地区公民館

台風はますます巨大化して毎年日本を襲い、大きな被害を与えています。地震、集中豪雨など多くの災害危機もすぐ隣にあります。災害が多い国に住んでいるという覚悟を持つことが必要です。

自分の命を守るためどうするのか。命を失ってから行政など他人のせいにして手遅れです。まずは自らが助かる行動をとりましょう。

災害時は近所等で助け合う(近助)ことが必要ですが、助け合える状況をいきなり作りだすことはできません。

どうすべきか、普段の生活から心がけましょう。

大正地区では安全・安心な地域づくりを目指し あいさつ運動を進めています

あいさつでうまれる  
人の和 地域の輪

## 防災クイズ ○ × に挑戦 (訓練当日の8問のうちから)

- ◆1 成人でも、水深が80cmを超えると歩くことが困難となる。【 】
- ◆2 床下浸水した時など、水圧が掛ったドアを開けることができる水深は50cm程度である。【 】
- ◆3 車で移動中に浸水に遭遇すると、水深30cm程度でエンジンが停止する。【 】
- ◆4 水深が40cmで少し流れがあると車は流れ出す。【 】
- ◆5 市長村長が住民に避難を促すため発令するのは、「避難勧告」および「避難指示」である。【 】
- ◆6 避難場所とは「災害の危険から命を守るため一時的に避難する場所」で、避難所とは「災害によって住所を失った場合などに一定期間避難生活をする場所」である。【 】

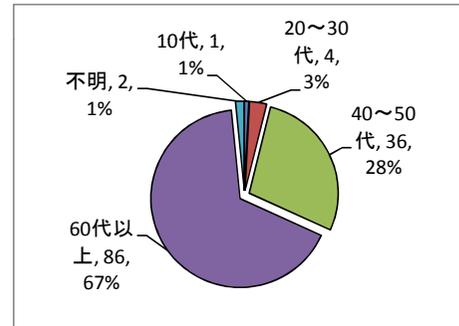
## アンケート集計結果

参加者約210名のうち129名の方から回答をいただきました。その結果です。

### 問1 年齢・性別

10代	1	男:1
20~30代	4	男:3 女:1
40~50代	36	男:21、女:15
60代以上	86	男:60、女:24、不明:2
不明	2	男:1 不明:1

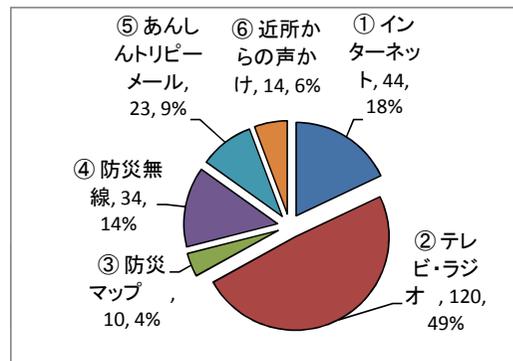
(男:86 女:40 不明:3)



### 問2 大雨等の時、どのような方法で気象情報や河川情報を見たり知ったりしていますか

(複数回答可)

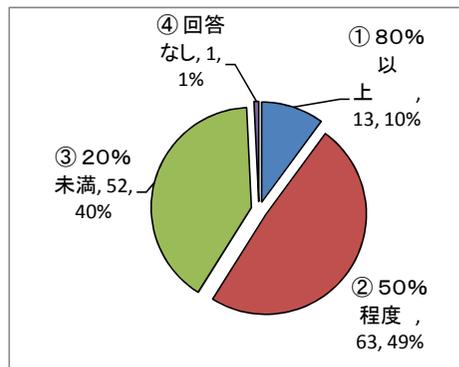
① インターネット	44
② テレビ・ラジオ	120
③ 防災マップ	10
④ 防災無線	34
⑤ あんしんトリピーメール	23
⑥ 近所からの声かけ	14



### 問3 今後あなたが水害にあう確立はどの程度と考えますか

① 80%以上	13
② 50%程度	63
③ 20%未満	52
④ 回答なし	1

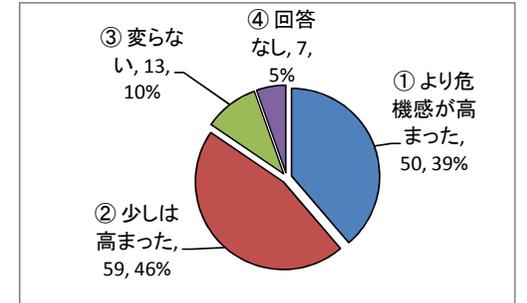
4割の人が確立20%未満と回答



### 問4 想定浸水深区域図等の説明を受け、水害に対する危機感に変化がありましたか

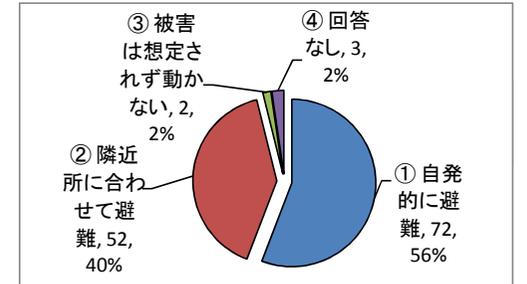
① より危機感が高まった	50
② 少しは高まった	59
③ 変わらない	13
④ 回答なし	7

9割の人が危機感が高まったと回答



### 問5 避難勧告・指示などの情報提供があった場合、どのように対応しますか

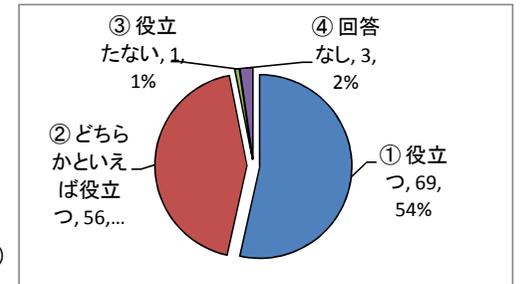
① 自発的に避難	72
② 隣近所に合わせて避難	52
③ 被害は想定されず動かない	2
④ 回答なし	3



### 問6 災害図上訓練(DIG)は災害時に役立つと思いますか

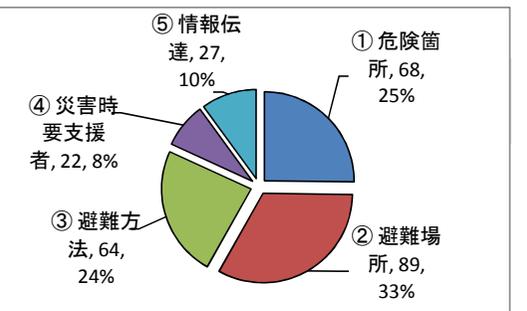
① 役立つ	69
② どちらかといえば役立つ	56
③ 役立つ	1
④ 回答なし	3

ほぼ全員が役立つと回答



### 問7 図上訓練で理解できた事柄はどんなことですか(複数回答可)

① 危険箇所	68
② 避難場所	89
③ 避難方法	64
④ 災害時要支援者	22
⑤ 情報伝達	27



### 問8 防災食料(非常食)の準備状況について

① 準備している	23
② 準備していない	105
③ 回答なし	1

今後準備を心がける	79
準備しない	24
回答なし	2

準備が進んでいない実態がうかがえる

### 【意見等(一部)】

- ・事後の防災も大切であるが、危険が予見されるなら国、県、市のレベルで予防・措置を講じられたい。(川の河床掘削等)
- ・受身の人が多すぎる。自助ということをよく考える必要がある。 ・自治区内でも同様の研修(訓練)をしてほしい。
- ・一時避難場所として考えた場所、建物に対する交渉は、町内がするのか、まちづくり協議会が交渉してもらえるのか。
- ・スクリーンが小さくて見えない。音響が悪い。 ・床に座っているのは非常にきつく、疲れる。
- ・訓練は必要、たびたび実施すべき。図上より体を使った訓練を。 ・女性の立場では、11時半ごろには終わってほしい。

防災クイズに答え 1:×(50cmを超えると困難) ◆2:×(30cm、50cmでは一般的なドアは100kg程度) ◆3:○ ◆4:○ ◆5:×(避難準備情報がある) ◆6:○